

2016年10月28日
日本板硝子株式会社

2017年3月期 第2四半期連結決算報告 (2016年4月1日～2016年9月30日)

- 2017年3月期第2四半期の営業利益とキャッシュ・フローは、前年同期から大きく改善
- 高付加価値品の販売数量が増加するなど、事業改善のための施策は着実に進捗
- 2017年3月期の通期業績見通しは、為替換算の影響を考慮し、売上高の予想を修正
- 当初の中期経営計画(MTP)目標は変更せず、2018年3月期～2020年3月期を「MTPフェーズ2」として、目標必達の施策をスタート

2017年3月期第2四半期の営業利益とキャッシュ・フローは、前年同期から大きく改善

- グループ売上は2,898億円で、円高の影響により前年同期から減少(前年同期3,217億円)
- 無形資産償却前営業利益は、欧州市場の改善やエネルギーコストの減少及びVA化の進展によって大きく改善し、157億円(前年同期101億円)
- 建築用ガラス事業は、売上1,184億円(前年同期1,331億円)、無形資産償却前営業利益134億円(前年同期91億円)
- 自動車用ガラス事業は、売上1,479億円(前年同期1,624億円)、無形資産償却前営業利益53億円(前年同期41億円)
- 高機能ガラス事業は、売上233億円(前年同期258億円)、無形資産償却前営業利益5億円(前年同期2億円)
- フリー・キャッシュ・フローは42億円のプラスまで改善(前年同期205億円のマイナス)

高付加価値品の販売数量が増加するなど、事業改善のための施策は着実に進捗

- 建築用ガラス事業の欧州と北米では、高付加価値品の販売数量の増加等により、業績が堅調に推移

2017年3月期の通期業績見通しは、為替換算の影響を考慮し、売上高の予想を修正


- 営業利益、税引前利益、当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益は当初予想から変更なし

当初の中期経営計画(MTP)目標は変更せず、2018年3月期～2020年3月期を「MTPフェーズ2」として、目標必達の施策をスタート

- 「MTPフェーズ2」では、「VA No.1 戦略推進」、「ビジネスカルチャーイノベーション」、「成長ドライバーの確立」及び「グローバル経営強化」を展開する
- 建築用コーティング製品、ソーラー用、自動車用の複雑形状ガラス、高機能製品(glanova®、グラスコード、バッテリーセパレーター)などのVA分野でNo.1を目指す

<2017年3月期第2四半期 連結決算説明資料より抜粋>

連結損益計算書




(億円)	16年3月期 4月-9月期	17年3月期 4月-9月期	前年比
売上高	3,217	2,898	-10% ²
無形資産償却前営業利益	101	157	55% ³
償却費 ¹	(40)	(22)	
営業利益	61	135	
個別開示項目			
金融費用(純額)	(15)	64	
持分法による投資損益	(88)	(93)	
税引前利益/(損失)	(47)	109	
当期利益/(損失)	(16)	51	
親会社の所有者に帰属する当期利益/(損失)	(27)	42	
EBITDA	271	300	11%

¹ ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却
² 為替変動を除くと、4%増
³ 為替変動を除くと、92%増

為替換算の影響を受けるも、業績改善

2016年10月28日 | 2017年3月期第2四半期決算報告

2017年3月期連結業績予想



(億円)	当初予想	今回 修正予想
売上高	6,200	5,700
営業利益	310	310
税引前利益	150	150
当期利益	70	70
親会社の所有者に帰属する当期利益	50	50

為替換算の影響を考慮し、売上高の予想を修正

2016年10月28日 | 2017年3月期第2四半期決算報告